

強いチーム創りの着眼点

義務を全うせよ！！

イエローハットの創業者である鍵山秀三郎さんが、掃除道を普及させることで、よりよい会社、学校、自治体等々に作りかえていく社会貢献活動を実施しされていることは有名である。先日、この鍵山さんのセミナーを拝聴する機会があった。私は、鍵山さんが著した本は相当数購読し、また、コンサルティングしている企業にも購読を薦めてきたので、掃除道とは如何なるものか、ある程度は理解しているつもりだった。が、鍵山さんが発した次の言葉に、頭を殴られたような衝撃が走った。

それは、「星の王子さま」を著した、サン＝テグジュペリの格言を引用したものだ。

“人間の幸福は、自由の中に存在するのではなく、義務の甘受の中に存在するのだ”

鍵山さんは、この格言を「義務を全うしなければ、人間は幸福になれない。義務を全うすることで人間は、本当の自由が得られる」と解説した。

我々ビジネスパーソンが負っている義務とは、「支給されている給与に値する仕事をす

る」ことである。
「この義務を果たしているのかどうかを全社員に問い、できていなければ、義務の全うを迫れ！」と鍵山さんから言われたように感じ、ハッとしたのだ。

厳しい経営環境が続く、どの企業経営者も資金繰りや営業と、危機から脱出するために必死になって飛び回っている。このような経営者と話をして耳にする嘆きは、「あれ程、顧客回りをしろと言っても、うちの営業はいつもオフィスにいる」とか、「電話のベルは3回以内で対応するのが当社のルールなのだが、実施できていない事務員がいても、それをうちの管理者は注意できない」という内容である。

この類の問題点は、指導や教育の対象外であることに異論をはさむ余地はないだろう。当事者が自分の意思で、与えられた任務を全うしてもらえない問題だ。従って、できなければ、その任務から外れていただくしか方法がない。

このいたって当たり前な原理原則が、なおざりにされている職場が如何に多いことか。義務を果たす気がない人ほど、訳のわからない質問をしてくる。

「顧客訪問件数をやみくもに増やしても、成果には結びつかないと思うんですが、平堀さんはどう思われますか」「今の若い人たちは、叱ると直ぐに辞めてしまうので、どうやって注意したらいいでしょうか」という具合だ。私は、「まずは、社長が方針に掲げる顧客訪問件数を実行してから、考えましょう」「まずは、課長が目にした部下の問題点をきちんと部下に指摘してから、考えましょう」と明快に答える。もっと分かりやすく表現すれば「四の五の言わずに、とにかくやるべきことをやれ！」と突き放しているのである。

今、社員に求めなければならないのは、“義務の全う”である。そうするには、信賞必罰しかない。時代の流れについていけない企業は、規模の大小にかかわらず、市場から退場

させられる厳しい世の中で、社長が日夜奮闘しているのだから、社員にも義務を全うすることに、それなりの覚悟と責任を担ってもらうのは当然である。

株式会社アッシュ・マネジメント・コンサルティング
代表パートナー 平堀 剛